

別表1

採用場所	中央水産研究所 資源研究センター 資源評価グループ 神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4
研究課題名	「漁業データや調査船データに基づく実践的資源評価手法の高度化」 1) 魚群分布、漁獲効率、対象種の移動回遊に関するデータを利用した資源評価モデルの開発 2) 利用できるデータの量や精度に対応して選択可能な資源評価手法についてのマニュアルの開発 3) 資源評価対象種への具体的な適用と精度向上など性能評価を通じた、実践的な資源評価手法の高度化
研究業務内容	<p>新しい漁業法のもとで資源管理に目標管理基準値が導入されることに対応し、資源評価においてもMSY(最大持続生産量)の考え方をベースとする管理基準値を設定していくことが喫緊の課題となっている。新しい漁業法ではまた、全ての種類の水産資源について資源評価を行うよう努めることも定められており、既存の調査体制ではデータが十分に得られてこなかった魚種についても適切な調査を自ら実施し、年々の調査実施によって資源評価精度を向上させていくことが求められている。各資源に対して適切な管理基準値の導入を展望しながら、評価対象種を円滑に拡大していくには、漁業や調査から得られるデータを幅広く活用するとともに、必要に応じて調査を自ら設計・実施し、さらに調査結果についての数理的な解析までを系統的に行うことが必要である。また、資源評価手法やモデル選択についてマニュアル開発にも取り組むことで、機構のみならず水産試験研究機関がこれまで以上に効率的に資源評価に対応していくことを促進できる。これらの背景のもとで、本研究は、データを幅広く活用した資源評価モデルの開発に取り組むとともに、利用可能なデータの量や質に対応した資源評価手法の選択に関するマニュアル開発、さらには多様な魚種の資源評価への具体的な適用とその適合性などの性能評価をシミュレーション手法を用いて実施する。それらにより、漁業現場や調査現場での実践的な資源評価手法の高度化に資する。</p> <p>本研究の推進にあたり、以下の業務を行う。</p> <p>① 漁船や調査船で得られる魚群分布や漁獲効率のデータ、さらに標識データなど対象種の移動回遊に関するデータを幅広く活用した資源評価モデルの開発を行う。</p> <p>② 資源評価に利用可能なデータが十分な魚種から不足している魚種まで幅広く利用できる、データの量や質に応じて評価実施者が選択可能な資源評価手法についてのマニュアル開発を行う。</p> <p>③ 日本周辺における多様な魚種の資源評価への具体的な適用と、その適合性などの性能評価を通じた、実践的な資源評価手法の高度化を行う。</p>
研究業務内容に関する問合せ先	中央水産研究所 業務推進部長 銭谷 弘 TEL:045-788-7601